

## 越山若水

2021.4.16

地球の緯度は天体の動きで計算

できる。でも経度を測るのは昔、

とても難しかった。17〜18世紀の

欧州諸国はその技術を渴望した。

海の覇権を競うため海難を避けね

ばならなかった▼必要とされたのが正確な時

計。船上だから振り子は役に立たない。ぜん

まいも寒暖の影響が大きく、そのままでは使

えない。英国は1714年に開発を促す法律

「経度法」を設け賞金を用意。その後、ジョ

ン・ハリソンという人が難題を克服するまで

半世紀を要した▼ハリソンの時計は、時の神

「クロノス」にちなみクロノメーターと呼ば

れた。以上は「時計の社会史」(角山榮著)

に学んだが、幕末にクロノメーターを所持し

たのが松平春嶽だ。これは、福井市立郷土歴

史博物館の特別展「グリフィスが見た明治の

福井」で知った▼春嶽は気圧計、方位測定儀

なども集め、所有するだけでなく実際に使っ

た。1867(慶応3)年の「登京日記」は

分単位の発着時刻や朝夕の気温を記している

という。科学技術を重視した春嶽の姿勢は福

井藩士たちに広がっていたはず。展示からそ

んな実感が湧く▼だから、71(明治4)年に

最先端の化学理論を携えて福井にやってきた

グリフィスの講義は、それを聴く福井の人々

に染みわたったと想像できる。科学の正確な

知識の大事さはコロナ禍の今、私たちが痛感

しているところ。先人の情熱を見習いたい。